

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200938		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	四郷グループホーム		
所在地	三重県四日市市西日野町小溝野4014		
自己評価作成日	令和4年9月5日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2470200938-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和4年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内には、在宅介護支援センター・デイサービス・ヘルパーステーション・サテライト特養があり、合同で防災訓練を行い、非常時に協力体制が取れるようにしている。ご利用者がその人らしく笑顔で暮らせるよう、お一人おひとりに合ったケアを行うことを心掛け、「一人ひとりを尊重し笑顔あふれる家」を目指している。敷地内の畑では野菜作り、玄関先では四季折々の花作りをし縁台を置き憩いの場となっている。食事・おやつ作りでは季節感を楽しみ、お誕生日には、食べたいものをリクエストしていただき、「ここに来て良かった」と思ってもらえるよう、一緒に楽しみやできる事を探して生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四日市あすなろう鉄道西日野駅から南へ徒歩で10分にある事業所である。敷地内に在宅介護支援センター・デイサービス・サテライト特養があり交流がある。利用者は食事の準備や後片付け、掃除・洗濯物干し・洗濯物たたみ・花への水やり・畑での野菜作りや収穫等、自分のペースで生活をしている。管理者・職員は、自治会長・民生委員・行政・医師等の関係者や利用者家族の理解と協力により、利用者が豊かで安心して生活できる事業所を目指して支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりを尊重し笑顔あふれる家」を理念に掲げ、ご利用者がその人らしく楽しく生活できるよう、一人ひとりに目を向け、管理者・職員間で情報共有を行っている。	理念の「一人ひとりを尊重し笑顔にあふれる家」を玄関の職員が目につきやすい場所に掲示してある。管理者・職員は理念を共有しながら、利用者が毎日笑顔で安心して暮らせるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はなく、努力が必要である。現在は、コロナウイルス感染症予防の為、地域行事への参加は見合わせている。	自治会に加入しており、以前は地域の文化祭や催し物に参加していたが、コロナ禍で現在は参加していない。コロナが収束したら従来通り参加していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域貢献は出来ていないが、近くに中学校・高校がある為、福祉経験や職場体験を行い、在宅も多くある為、認知症カフェを開催して認知症の理解を深めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治体からの指導もあり、コロナウイルス感染症予防の為、現在は当施設の取り組みや介護事故報告等を郵便で送り、情報提供し、ご意見を聞かせていただいている。	行政・自治会長・民生委員の参加で2か月毎に開催していたが、コロナ禍で開催出来ず文書報告での運営推進会議となっている。各委員から書面で意見や提案を頂き事業所の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から密に連絡を取る関係性はないが、運営推進会議の場を活用している。様々な情報や研修の案内は継続していただいている。	管理者が必要時に市介護保険課に出向いて相談や助言をもらっていたが、コロナ禍で電話やFAX、メールでの対応が増えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としての研修と四郷施設内の研修を行っている。身体拘束廃止委員会やミーティング時にも、どのようなものが身体拘束に当たるのか、どのようなケアを行っていったらよいか考え、話し合い身体拘束廃止の取り組みを行っている。	3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を開催している。法人内・事業所で研修を実施しており、言葉による拘束についても職員間で話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人としての研修と四郷施設内の研修を行っている。虐待防止委員会やミーティング時にも、どのようなものが虐待に当たるのか、行っていないか確認し、注意と防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護を利用しているご利用者はみえないが、必要時、協議をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の訪問時や入所時の契約の際、十分に時間を取り、重要事項説明書の読み合わせをし、疑問や不安などにお答えさせていただき、後日でも遠慮なくお話しいただけるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見を記入いただける用紙を用意している。電話や面会時に頂いた、ご意見に対して、ミーティング等で話し合い改善するようにしている。	コロナ禍で面会が減少し、家族の意見を聞けなくなっている。「四郷グループホーム便り」に担当職員のコメントと利用者の状況報告を記入し、家族に郵送して意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と少しでも話しやすい関係を築けるように努力している。朝・夕の申し送りでは、時間をとって意見や提案を聞き、事業所の運営に反映させている。	管理者は、職員の意見や提案が言い易い人間関係や環境づくりを心掛けている。日常会話からも利用者支援や運営についての意見や提案があり、事業所運営に反映をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の導入により、職員一人ひとりが目標や課題を明確にし、お互い向上心をもって働けるような環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティング後に緊急時の対応などの勉強会を行い、スキルアップに繋げている。法人外の研修は、それぞれの職員に必要な研修が受けられるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内には4つのグループホームがあり、毎月オンライン会議にて情報交換をし、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の訪問調査時にご本人の思いや状況を出るだけ把握し、職員はケース記録を読み情報共有を行っている。ご利用者が入所される際には、笑顔で接し不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の施設見学時や訪問調査時に不安や疑問等、安心して話をしていただけるよう、ご家族の話に耳を傾けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスの提案をし、色々な選択肢の中からご本人に相応しいサービスを選んでいただけるように努めている。必要時には、業者に連絡をし、助言やアドバイスをもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の場面において、それぞれ得意なところで役割を分担し、助け合って生活をして信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や身体の状態の変化に気づいた際には、ご家族と密に連絡を取り、今後のケアについてご家族と相談しながら、一緒にご利用者を支える関係を築けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防の為、面会ができない代わりに電話やオンライン面会を利用して、関係が途切れないように支援している。	以前は外出や外泊で家族が関係継続の役割をしていたが、コロナ禍で関係継続の支援が困難である。コロナ収束後は回想法を活用して家族の理解と協力により、馴染みの人や場との関係を保ちながら支援をしていきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の相性を見ながら、状況に応じて職員が間に入ったりして居心地の良い関係づくりができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて連絡や相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所されるまでの生活歴、生活習慣を把握し、今までの暮らしに近い生活を当施設でも継続していけるようご家族とも相談し、環境を整える等、ご希望に添えるよう努力している。	職員は日常の会話、夜勤時や入浴時等1対1で支援する時に、利用者の思いや意向を把握するようにしている。把握困難な利用者は、表情や仕草・行動から把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご本人やご家族から、聞き取り、把握できるよう会話をもっている。担当ケアマネジャーや施設職員からも情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の生活の様子、健康状態は毎日個人記録に記入、タブレットに入力し、職員は出勤時に記録に目を通し、申し送りを行い把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の希望、ご家族の意向を聞き、計画作成者以外の職員にも情報や意見を聞きながら、ご利用者本位の計画になるようにしている。	3ヶ月毎にモニタリングを実施している。介護支援専門員が、医師・担当職員・家族の意見を聞いて6ヶ月毎に計画の見直しを行い、介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での気づきや気になったこと等を個人記録に記入、タブレットに入力し、必要な対応やケアの改善をミーティングや日常の中で話し合い、試みながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の希望や状況により、随時相談を受けて話し合いながら、他のサービスに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に参加したり、近所の公園にお花見に行ったり、同敷地内の施設で開催される催し物に参加していたが、現在は敷地外への外出難しく、継続が困難になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に診てもらっている。受診時は、ご家族と一緒に受診に行っていた。往診の方もみえ、適切な医療が受けられるように努めている。同敷地内のサテライト特養と連携をし、緊急時には協力が得られる。	利用者全員が従来からのかかりつけ医で、家族の協力を得ながら受診しており、数名は訪問診療を利用している。また、同敷地内のサテライト特養と連携、緊急時には協力が得られ、利用者が常に適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者のかかりつけ病院の看護師や同敷地内の看護師に相談を行ったり、必要であれば様子を診ていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、ご家族や入院先の病院関係者と連絡を取り合い、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者とご家族の意向を確認し、可能であれば、住み慣れた当施設で過ごしていただく。ご利用者の進行状況などを考慮し、法人内の介護施設や病院を紹介している。	入居時に利用者の看取りや重度化した場合の指針を説明をしている。重度化した場合は、医師・管理者・家族が相談し対応をしている。現在看取り支援を希望する利用者が1名いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やミーティング等で緊急時の対応について学ぶ機会を得ている。不明な事や疑問点は同敷地内の他施設の看護師に尋ねたり相談をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内の他施設と合同避難訓練や通報訓練を行い、協力体制を築いている。非常食の見直し、停電時に対応できるように自家発電を備えている。	年に2回、敷地内の他の事業所と合同で防災訓練を実施している。水・食料等の備蓄や防災用品等の設置、72時間対応の発電機がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は人生の先輩として尊重し敬意を持って声をかけ、接している。不適切な言葉かけや対応についてミーティング等で、話し合っている。	呼称はさん付けで呼んでいる。常に優しい声掛けや丁寧な言葉遣いでプライバシーを損ねないよう支援をしている。ドアと居室の間にカーテンが設置してある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が日常生活のなかで少しでも多く自己決定ができるよう、声掛けや対応の工夫、言いやすい雰囲気となるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や日々のレクリエーションにお誘いはするがご本人の意思を尊重し、出来るだけご利用者の意思に沿って、ご自分のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者がその日の気分で着たい服を選び、着ていただいている。ご自分で難しい場合は、職員がサポートをしている。訪問理容では、ご自分で希望を理容師に伝えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、後片付けまで職員と一緒に取り組んでいる。献立は管理栄養士が作っているがご利用者の状況や好みに合わせてアレンジしている。	業者が立てた献立で、業者発注の食材を事業所で調理をしている。事業所の畑で収穫した季節感のある野菜の料理を添えている。利用者は、おはぎやクッキー・スイートポテト等手作りおやつを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録に記入、タブレットに入力し、水分はこまめに摂ってもらっている。摂取量が低下している場合は、お好きな物を積極的に摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアをしていただけるよう、声をかけている。必要に応じ介助させてもらっている。訪問歯科による往診があり、一人ひとり口腔状態を診ていただき、歯磨き指導・歯茎のマッサージ、食前体操などアドバイスをもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレは4ヶ所あり、気兼ねなくゆっくりと使用できる。プライバシーに配慮し、排泄できるように環境を整えている。排泄情報を職員同士で共有するが、他のご利用者に聞こえないように配慮している。	布パンツを使用している利用者が9名おり、排泄記録表を職員が共有しながら、利用者全員がトイレで排泄出来るように支援をしている。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者が1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分摂取し、適度な運動を行っている。ヨーグルトや乳酸菌飲料、バナナなど、便秘に良い物を摂っていただいけるよう心掛けている。必要に応じ便秘薬を服用してもらうこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や体調に合わせて、順番を相談したり、翌日に変更するなどして入浴していただいている。	2日に一回、午前中に入浴をしている。浴室は広く、埋め込みの式の手すりがある浴槽で安全である。季節を感じる菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めて休まれる方や、眠たくなったら休まれる方、それぞれご自分のペースで休まれている。日中も居室やリビングで自由に静養していただいている。室内の温度・湿度に気を付けて、気持ちよく過ごしていただけるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、個人ファイルに綴じて、いつでも見れるようにしている。また、処方変更時は、業務日誌や連絡帳に記入をして、職員で情報共有をしている。服用時の体調変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯たたみ、料理の盛り付けなどの家事や、季節の作品作りやパズル、色塗りなどの余暇活動もご利用者それぞれが望まれたものを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先で外気浴、敷地内の散歩をしている。花や野菜などの成長を見て、季節を感じていただいている。	コロナ禍で花見やドライブ等外出が出来ていない。事業所周辺の散歩や玄関前での外気浴、花や野菜の水やりと収穫をしている。	コロナ禍で外出は困難と思うが、近場での季節の花見や少人数によるドライブでの車窓からの見学等を実施することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は当施設では行っていない。ご家族と相談し、ご本人管理でお金や財布を持たれているご利用者もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者からの要望があれば、事業所からご家族やご友人に電話の取次ぎを行っている。お手紙のやり取りの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が不快にならないよう、照明・温度・湿度などの調整をしている。玄関先には、季節の花を育て、飾りたい花があれば自由に切って、生けてもらっている。ご利用者が手入れ、水やりを進んで行っている。	リビング兼食堂に利用者と職員が作成した季節の貼り絵や作品が掲示してある。また、季節の生け花が各所に生けてある。小まめな清掃・換気、サーキュレーターの設定による除湿や加湿による室温管理等、感染症対策に努めており、利用者が快適に過ごせる環境づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者一人ひとりの性格やご利用者同士の関係性などを把握し、テーブルや座席の配置を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には電動ベッド、クローゼットがあり、ご本人やご家族の希望の家具や家電が持ち込める。馴染みの家具や使い慣れたものを持参していただき、居心地よく過ごせる空間づくりを行っている。	洗面台・クローゼット・ベット・エアコンが設置され、使い慣れた家具やテーブル・椅子・テレビ等が持ち込まれている。写真や利用者の作品等が置いてあり、掃除も行き届き、整理整頓された清潔で明るい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行で不安定な歩行であるご利用者が安全に自立した生活が送れるように廊下やトイレに手すりがある。トイレや居室は分かりやすいように掲示をして、トイレの電気はつけたままにするなど工夫をしている。		